

外郭団体「公益財団法人 よこはまユース」の協約マネジメントサイクルに基づく評価結果について

本市では、各外郭団体が一定期間における主要な経営目標を本市との「協約」として掲げ、経営の向上を促進する「協約マネジメントサイクル」の取組を進めています。27年度から各団体において取組を進めている「協約」については、横浜市外郭団体等経営向上委員会（以下「委員会」という。）を活用し、協約の進捗状況及び経営を取り巻く環境の変化への対応に関する評価を毎年度実施し、マネジメントサイクルの効果の向上及び団体経営の健全化を図っていくこととしています。

この度、これまでの取組実績を踏まえ、委員会による評価を実施しましたので、評価結果等についてご報告いたします。

1 公益財団法人 よこはまユースの評価結果

(1) 26年度に定めた団体経営の方向性等

ア 団体経営の方向性

「事業の再整理・重点化等に取り組む団体」

イ 協約の期間

平成27～29年度

(2) 協約目標の取組結果（抜粋）

ア 公益的使命の達成に向けた取組(1)（地域全体で青少年を支える環境を醸成するための人材育成）

取組	25年度実績	27年度実績	29年度目標	進捗状況
①地域における青少年の体験活動の支援（相談、助言、啓発）並びに、講座、セミナーの実施回数増加	実施回数 1,516回 活動支援 1,366回 講座セミナー150回	実施回数 1,727回 活動支援 1,513回 講座セミナー214回	実施回数 1,680回以上 活動支援 1,500回以上 講座セミナー 180回以上	順調
②小学生の成長支援を目指した、放課後児童育成事業スタッフのスキルアップ	調査・研究	研修実施 評価・検討	研修項目を体系化し研修を実施	順調

イ 公益的使命の達成に向けた取組(2)（ネットワークの推進や団体の運営支援による、青少年育成活動の更なる充実や新たな取組の創出）

取組	25年度実績	27年度実績	29年度目標	進捗状況
①青少年に関わる人材ネットワークの拡充と既存ネットワークとの連携強化	青少年の居場所・地域活動拠点連絡会 1回/年	青少年の居場所・地域活動拠点連絡会 2回/年	青少年に関わる人材ネットワーク会議 4回/年	やや遅れ
②放課後キッズクラブ等の安定運営のための支援、事業の充実を目指したネットワーク構築	事業企画	NPO立ち上げ型キッズ支援2か所 スタッフ交流事業 6回/年	NPO法人立ち上げに向けた相談・助言3件/年、交流会6回/年	順調

ウ 公益的使命の達成に向けた取組(3)（青少年が直接参加する活動・体験機会の提供の拡大及び、そこから得られるノウハウや課題をもとにした、指導者、育成者、関係団体等に対する中間支援機能の強化）

取組	25年度実績	27年度実績	29年度目標	進捗状況
①他団体と連携・協働による、青少年が直接体験できる活動プログラムの拡充	実施回数 243回 参加者数 12,321人	実施回数 412回 参加者数 24,664人	実施回数 270回以上 参加者数 16,000人以上	順調
②施設利用者の満足度の向上	各施設の満足度 育成C：91.4% 交流C：87.3% 研修C：98.3%	各施設の満足度 育成C：86.1% 交流C：94.6% 研修C：97.9%	各施設の満足度 育成C：95.4% 研修C：98.5%	やや遅れ
③他団体へのノウハウ提供等による活動支援	実施	実施	実施	順調

エ 事業の再整理・重点化等に向けた取組

取組	25年度実績	27年度実績	29年度目標	進捗状況
①人材育成、ネットワーク推進、活動支援と体験事業の実施	講座・研修、連絡会、相談、コーディネート	講座・研修、連絡会、相談、コーディネート	現場運営で得たノウハウ・課題等を活かした中間支援機能の発揮（※【公益的使命の達成に向けた取組(1)～(3)】に掲げる目標数値により、進ちよくを確認）	順調
②放課後キッズクラブや青少年施設の運営を通じたノウハウの蓄積、課題把握等	放課後キッズクラブ18か所、青少年施設3か所の運営	放課後キッズクラブ26か所、青少年施設3か所の運営	現場運営で得たノウハウ・課題等を活かした中間支援機能の発揮（※【公益的使命の達成に向けた取組(1)～(3)】に掲げる目標数値により、進ちよくを確認）	順調

オ 財務の改善に向けた取組

取組	25年度実績	27年度実績	29年度目標	進捗状況
自主財源収入を平成27年度までに25,700千円/年以上に引き上げます。	23,850千円	26,614千円	【27年度以降】 25,700千円以上	順調

カ 業務・組織の改革

取組	25年度実績	27年度実績	29年度目標	進捗状況
事業評価の仕組み：他都市類似団体や大学の研究機関等と連携し、外部委員による事業評価を新たに実施	全事業を対象に内部評価を実施。(上半期、下半期の年2回)平成26年度事業に反映。	全事業を対象に内部評価を実施。(上半期、下半期の年2回)平成28年度事業に反映。外部評価に関する調査。	外部評価実施方法の検討、試行	順調

(3) 協約目標設定後に生じた課題等

少子高齢化や地域のつながりの希薄化など、青少年を取り巻く環境の変化に伴い、青少年の健やかな成長を支える健全育成は、その重要性を増しているところだ。

また、いじめ、不登校、ひきこもり、貧困など、困難を抱える青少年に対する支援も、学校、行政、家庭、地域、関係団体・機関等が連携して対応すべき、大きな課題となっています。

今後、団体は、青少年の健全育成を推進するため、人材育成やネットワークづくりなどの取組を強化するとともに、こうした困難を抱える青少年を支援するための活動にも取り組んでいく必要があります。

(4) 28年度経営向上委員会の評価結果及び助言

評価結果	委員会助言
引き続き取組を推進	<p>協約の取組目標については、公益的使命の達成に向けた取組にやや遅れがあるが、概ね順調に取り組まれている。また、他に団体の経営状況に新たな課題は認められない。</p> <p>団体は、事業の再整理・重点化等に取り組む団体と位置づけられている。青少年を取り巻く社会状況の変化に応じた団体の役割の明確化を踏まえ、団体の本来の役割である中間支援機能が効果的に発揮されるよう、事業の取捨選択を含めた見直しを継続していく必要がある。</p>

※委員会による評価は、以下の4つの評価分類から、団体ごとに決定しています。

- ①引き続き取組を推進
- ②取組の強化や課題への対応が必要
- ③協約の見直しが必要
- ④団体経営の方向性を見直しが必要

(5) 評価結果を受けた所管局・団体の振り返り

<p>協約の取組目標については、概ね順調に進んでおり、「やや遅れ」のあった項目を含め、引き続き29年度目標を達成できるよう着実に取組を進めていきます。</p> <p>また、委員会の助言をふまえ、団体の役割である中間支援機能が効果的に発揮されるよう、社会状況の変化に対応した取組の強化や見直しにより、事業の一層の重点化に取り組んでいきます。</p>

2 添付資料

「平成28年度 総合評価シート」(答申抜粋 公益財団法人よこはまユース部分)

【参考】横浜市外郭団体等経営向上委員会等について

1 経営向上委員会概要

設置根拠	横浜市外郭団体等経営向上委員会条例(平成26年9月25日施行)
設置目的	外郭団体等のより適正な経営の確保を図るとともに、外郭団体等に関して適切な関与を行うため
委員 (任期2年)	大野 功一 (関東学院大学 経済学部教授)【委員長】
	遠藤 淳子 (遠藤淳子公認会計士事務所 公認会計士)
	大江 栄 (エフ・ブルーム(株) 代表取締役 中小企業診断士)
	嶋志田 晃 (横浜市立大学 学術院国際総合科学群経営学コース教授)
田辺 恵一郎 (プラットフォームサービス(株) 代表取締役会長) ちよだプラットフォーム(官民連携による中小企業者のビジネスマニフェスト) 運営会社を運営	
設置	平成26年10月21日
所掌事務	<ul style="list-style-type: none"> 1 外郭団体等のより適正な経営を確保するための仕組み及び外郭団体等に対する市の関与の在り方に関すること 2 外郭団体等の経営に関する方針等及びその実施状況の評価に関すること 3 外郭団体等の設立、解散、合併等に関すること 4 その他外郭団体等に関し市長が必要と認める事項

2 団体経営の方向性：4分類の考え方

団体分類	分類の考え方
統合・廃止の検討を行う団体	<ul style="list-style-type: none"> ①速やかに廃止すべきもの ②廃止に向け、方針期間中に残務・財産整理等を計画的に進めるべきもの ③統合等により、現在の公益サービスの継続を目指すべきもの
民間主体への移行に向けた取組を進める団体	<ul style="list-style-type: none"> ①市の関与を見直し、方針期間中に民間主体の経営へ移行すべきもの ②財務状況改善後等に民間主体の経営へ移行するため、方針期間中に財務状況の改善を進めるべきもの
事業の再整理・重点化等に取り組む団体	<ul style="list-style-type: none"> ①団体運営(公益的使命等)の実現及び財務状況の改善に向け、事業の統廃合を伴う経営改革を進めるべきもの ②団体運営(公益的使命等)の実現強化に向け、事業の重点化を進めるべきもの ③地方独立行政法人制度活用の検討も含め、事業の再整理を進めるべきもの
引き続き経営の向上に取り組む団体	<ul style="list-style-type: none"> ①引き続き、現在の団体運営及び財務状況を維持するとともに、さらなる経営努力を続けるべきもの ②団体運営(公益的使命等)に問題はないが、財務状況の改善に向けた取り組みを進めるべきもの ③団体運営(公益的使命等)に問題はないが、経常損益の早期黒字化を図りつつ、今後の運営形態について幅広く検討すべきもの

平成28年度 総合評価シート

団体名	公益財団法人 よこはまユース	所管課	こども青少年局 青少年育成課
協約期間	平成27年4月1日～平成30年3月31日（3か年の2年目）		

分団 類体	事業の再整理・重点化等に取り組む団体						
① 協約の 取組 状況	公益的使命の達成に向けた取組 (1)		25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (目標)	29年度 (目標)
	①地域における青少年の体験活動の支援(相談、助言、啓発)並びに、講座、セミナーの実施回数増加	実績 (単位)	実施回数:1,516回 活動支援:1,366回 講座セミナー:150回	実施回数:1,666回 活動支援:1,478回 講座セミナー:188回	実施回数:1,727回 活動支援:1,513回 講座セミナー:214回	実施回数:1,680回 活動支援:1,500回 講座セミナー:180回	実施回数: 1,680回以上 活動支援: 1,500回以上 講座セミナー: 180回以上
		進捗 状況	-	-	順調	順調	-
	②小学生の成長支援を目指した、放課後児童育成事業スタッフのスキルアップ	実績 (単位)	調査・研究	研修実施 評価・検討	研修実施 評価・検討	研修実施 研修項目の体系 化と研修企画	研修項目を体系 化し研修を実施
		進捗 状況	-	-	順調	順調	-
	公益的使命の達成に向けた取組 (2)		25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (目標)	29年度 (目標)
	①青少年に関わる人材ネットワークの拡充と既存ネットワークとの連携強化	実績 (単位)	青少年の居場所・地域活動拠点連絡会 1回/年	青少年の居場所・地域活動拠点連絡会 3回/年	青少年の居場所・地域活動拠点連絡会 2回/年	青少年に関わる人材ネットワーク会議 3回/年	青少年に関わる人材ネットワーク会議 4回/年
		進捗 状況	-	-	やや遅れ	順調	-
	②放課後キッズクラブ等の安定運営のための支援、事業の充実を目指したネットワーク構築	実績 (単位)	事業企画	【試行実施】はまっ子ふれあいスクールと放課後キッズクラブ双方の交流事業 2回/年	NPO立ち上げ型キッズ支援 2か所 スタッフ交流事業 6回/年	NPO法人立ち上げに向けた相談・助言3件/年、交流会6回/年	NPO法人立ち上げに向けた相談・助言3件/年、交流会6回/年
		進捗 状況	-	-	順調	順調	-
	公益的使命の達成に向けた取組 (3)		25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (目標)	29年度 (目標)
	①他団体と連携・協働による、青少年が直接体験できる活動プログラムの拡充	実績 (単位)	実施回数:243回 参加者数:12,321人	実施回数:323回 参加者数:23,754人	実施回数:412回 参加者数:24,664人	実施回数:270回 参加者数:16,000人	実施回数:270回以上 参加者数:16,000人以上
		進捗 状況	-	-	順調	順調	-
	②施設利用者の満足度の向上	実績 (単位)	各施設の満足度 育成C: 91.4% 交流C: 87.3% 研修C: 98.3%	各施設の満足度 育成C:91.1% 交流C:83.9% 研修C:98.4%	各施設の満足度 育成C:86.1% 交流C:94.6% 研修C:97.9%	各施設の満足度 育成C:93.4% 研修C:98.3%	各施設の満足度 育成C:95.4% 研修C:98.5%
		進捗 状況	-	-	やや遅れ	順調	-
③他団体へのノウハウ提供等による活動支援	実績 (単位)	実施	実施	実施	実施	実施	
	進捗 状況	-	-	順調	順調	-	

団体名	公益財団法人 よこはまユース	所管課	こども青少年局 青少年育成課
協約期間	平成27年4月1日～平成30年3月31日（3か年の2年目）		

① 協約の取組状況	事業の再整理・重点化等に向けた取組		25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (目標)	29年度 (目標)
	①人材育成、ネットワーク推進、活動支援と体験事業の実施	実績 (単位)	講座・研修、連絡会、相談、コーディネート	講座・研修、連絡会、相談、コーディネート	講座・研修、連絡会、相談、コーディネート	講座・研修、連絡会、相談、コーディネート	現場運営で得たノウハウ・課題等を活かした中間支援機能の発揮 （※【公益的使命の達成に向けた取組(1)～(3)】に掲げる目標数値により、進ちよくを確認）
		進捗状況	-	-	順調	順調	-
	②放課後キッズクラブや青少年施設の運営を通じたノウハウの蓄積、課題把握等	実績 (単位)	放課後キッズクラブ18か所、青少年施設3か所の運営	放課後キッズクラブ23か所、青少年施設3か所の運営	放課後キッズクラブ26か所、青少年施設3か所の運営	放課後キッズクラブ27か所、青少年施設2か所の運営	現場運営で得たノウハウ・課題等を活かした中間支援機能の発揮 （※【公益的使命の達成に向けた取組(1)～(3)】に掲げる目標数値により、進ちよくを確認）
		進捗状況	-	-	順調	順調	-
	財務の改善に向けた取組		25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (目標)	29年度 (目標)
	自主財源収入を平成27年度までに25,700千円/年以上に引き上げます。	実績 (単位)	23,850千円	24,161千円	26,614千円	26,296千円	【27年度以降】25,700千円以上
		進捗状況	-	-	順調	順調	-
	業務・組織の改革		25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (目標)	29年度 (目標)
	事業評価の仕組み：他都市類似団体や大学の研究機関等と連携し、外部委員による事業評価を新たに実施	実績 (単位)	全事業を対象に内部評価を実施。(上半期、下半期の年2回)平成26年度事業に反映。	全事業を対象に内部評価を実施。(上半期、下半期の年2回)平成27年度事業に反映。外部評価に関する調査。	全事業を対象に内部評価を実施。(上半期、下半期の年2回)平成28年度事業に反映。外部評価に関する調査。	全事業を対象に内部評価を実施。(上半期、下半期の年2回)平成29年度事業に反映。外部評価に関する調査。	外部評価実施方法の検討、試行
進捗状況		-	-	順調	順調	-	

団体名	公益財団法人 よこはまユース	所管課	こども青少年局 青少年育成課
協約期間	平成27年4月1日～平成30年3月31日（3か年の2年目）		
② 環境・状況の変化	<p>青少年の日常的な交流・活動の場として運営していた横浜市青少年交流センターが廃止され、その代替事業として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 青少年の交流・活動支援事業が開始しました。交流センターに引き続き、当法人が運営法人として事業に取り組みます。 <p>団体が取り組む事業において、保護家庭等生活困窮家庭に育つ青少年や障がいのある青少年等への対応が求められており、職員の社会教育分野での専門性に加え、社会福祉、児童福祉分野での専門性の向上が課題となっています。</p>		
③ 経営状況	<p>法人の中期的な経営方針である、「公益財団法人よこはまユース経営方針(H25～H29)」における重点方針に位置付けた事業については、順調に成果を上げています。</p> <p>財政面では、正味財産増減額は毎年減となっていますが、これは公益法人移行に伴い、これまでの繰越金を公益目的事業充実のために活用計画に沿って執行しているためです。</p>		
④ 今後の課題	<p>現在行っている人材育成や関係機関とのネットワークづくりなどの事業に重点的に取り組むとともに、必要な財源を確保し、より一層中間支援組織としての機能を発揮していくことが必要です。</p> <p>また、事業の実践の場である青少年施設や放課後キッズクラブの運営を通じて、ノウハウの蓄積や課題把握等を行い、中間支援機能の強化を図っていく必要があります。</p>		
⑤ 課題への対応	<p>青少年を育む環境づくりや青少年に関わる人材の育成、ネットワークづくりを重点とした新規事業の実施や受託に取り組みます。また、所管局と検討をする中で、中間支援組織として必要な事業や取組を整理し、その機能を十分に発揮するため、平成30年度からの法人の新たな中期経営計画及び協約の策定を行います。</p>		
⑥ 協約の見直し	協約の見直しの必要性： 有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>		
	【見直しが必要な理由及び協約の変更内容】		

経営向上委員会 助言			
引き続き取組を推進	取組の強化や課題への対応が必要	協約の見直しが必要	団体経営の方向性 の見直しが必要
<p>協約の取組目標については、公益的使命の達成に向けた取組にやや遅れがあるが、概ね順調に取り組まれている。また、他に団体の経営状況に新たな課題は認められない。</p> <p>団体は、事業の再整理・重点化等に取り組む団体と位置づけられている。青少年を取り巻く社会状況の変化に応じた団体の役割の明確化を踏まえ、団体の本来の役割である中間支援機能が効果的に発揮されるよう、事業の取捨選択を含めた見直しを継続していく必要がある。</p>			